

私をくいとめて

あっという間に6月も半ば。授業が少しずつ再開されて、みなさんに会えるようになったので、なんだかすごくうれしいです。休校期間中、家にいる時間が多くなると、考え事をする時間も長くなりませんでしたか？どんな風にすごしていたのか、よかったら教えてください。私は本を読むとき、音楽を聴きながら読むことが多いです。クラシックもあれば歌詞ありのお気に入りの曲を小さい音で聴くこともあります。最近ハマったのは、読んでいる本にでてくる音楽を聴きながら読むこと。より一層本の世界に近づける気がして楽しいです。お休みの間に読んだ本には結構音楽の話も出てきたので、Apple musicやYouTubeで探して聴いたりしていました。そんな中で1冊、今月は綿矢りささんの「私をくいとめて」を紹介します。主人公・黒田みつ子は33歳の会社員。彼女の脳内には、いつも完璧な答えを教えてくれる「A」がいて、おひとりさまライフを満喫中。脳内会議的なことはみんなしているかもしれませんが、みつ子とAの会話は淡々としつつもおもしろくて、私もAを召喚したいと思うほど。会社の先輩と社内の個性的なイケメンについて話したり、休みの日に1人で食品サンプルを作りに行ったり、なんとなく恋の予感もあるのに、あまり進展しなかったり。だんだん行動的になっていくみつ子を見てると、その調子だ！と応援したくなります。音楽が出てくるのは彼女が飛行機に乗るとき。飛行機が怖い、と「A」に助けを求め、音楽を聴くことにしたみつ子。ゆっくり眠るために選んだ曲が大滝詠一の曲でした。ちょうどその箇所を読んでいるとき、私は朝の通勤電車に乗っていて、窓の外には海が見えました。晴れていたのだから、海はキラキラ、すてきなBGM、その曲にまつわる文章...すごくしあわせな気持ちになりました。本は室内で読むことが多いですが、そのシチュエーションが内容とリンクするとかなり印象に残るなあ、とその時のことを思い出しながら書いています。この自粛期間を過ごしてみて、行きたい場所に行けることや、自分のしたいことをすること、誰かに会えることが自由に決められるってうれしいことなんだと再確認できた気がします。生活リズムをととのえるのにまだ少し時間がかかるかもしれませんが、自分のペースも大事にしながら、がんばってみましょう

綿矢りさ

1984年京都府生まれ。早稲田大学教育学部卒業。
2001年『インストール』で第三八回文藝賞を受賞しデビュー。
2004年『蹴りたい背中』で第一三〇回芥川賞を受賞。
2012年『かわいそうだね?』で第六回大江健三郎賞を受賞。

綿 矢 り さ